(162) 岩手県野田玉川鉱山跡 (マリンローズパーク)

現在でもインターネットで、「野田玉川鉱山」、「マリンローズパーク」で検索すれば、当施設のホームページにたどり着ける。現地訪問のための詳細な情報はこのホームページで確認できよう。が、以下で、著者なりに、現地の位置、現地への経路、現地の様子を地図、写真、パンフレット、資料を用いて紹介していく。

日本で有数のマンガン鉱山であった本鉱山については、2003年出版の参考文献(1)が詳しい。その中に「平成10年以降、小規模探鉱を継続的に実施し、かつ採掘を行い、更に宝飾・観光を加えて、3部門により経営中」との記述がある。2019年の今は? インターネットで検索すると、野田玉川鉱山跡に観光施設「マリンローズパーク」が開設され、現在でも現役で営業していることが分かった。8月の現地訪問では、旧坑道内の観光、博物館の見学が行えた。なを、現地産のバラ輝石の採石も販売していた。品薄になればバックヤードから追加するとのこと。バックヤードが空となれば坑道に入って採取してくるとのことであった。この野田玉川鉱山は最盛期にはノンプロ野球球団を抱えていたそうである。それだけ繁栄していたのであろう。マンガン鉱石は製鉄において、鉄の品質向上のために必需品であった。ここから南の釜石製鉄所、北の室蘭製鉄所にマンガン鉱石を供給していたそうである。

鉱山としては多数の鉱床、坑口があったことが、鉱山関係資料から見て取れる。著者の判断によれば、訪問した「マリンローズパーク」は、図3に示している鉱山地質図中の「新通洞坑」跡に設置された。広い駐車場、博物館、レストランなどの他に、博物館前の前には遊歩道があり、坑道へ入り、内部を見学できる。坑道内は展示会場の如くとなっており、鉱山についての展示、解説で一杯である。

ところで、著者の現住地の栃木県の西北部の足尾山塊には驚くほど多数のマンガン鉱山があった。その中で加蘇鉱山は名の知れたマンガン鉱山であった。が、これら全ての鉱山は捨てられ、名も忘れ去られ、野田玉川鉱山跡のように「現役で生きている鉱山跡」はない。また、マンガン鉱山についての名著である参考文献(2)には、日本全国に渡って数え切れないほどの鉱山が紹介されている。しかし、それらの中で、著者の知っている「生きているマンガン鉱山」は野田玉川鉱山だけである。マンガン鉱石について興味のある読者は、一度は是非とも訪れるべきであろう。現地産の宝石「マリンローズ」も各種展示販売されている、原石とともに。

訪問日 2019年8月



図1 岩手県沿岸北部の地図である。赤丸3つで、「久慈琥珀博物館」、「野田玉川鉱山跡にあるマリンローズパーク」、「田野畑鉱山跡」の位置を示している。遠方から来て、この地域を訪問するならば、折角なので、これらを抱き抱えで訪問するのを勧める。ただし、田野畑鉱山跡へは現時点で入山禁止であることに注意すること。足としては、太平洋岸に沿って延びている45号線を利用することになろう。現在この45号に平行して、新たに自動車専用道路「三陸道」も部分部分ながら開通し、伸び続けている。現在、無料利用期間中である。これも利用できよう。或いは、三陸縦貫鉄道の北部はほぼ貫通したので、三陸鉄道を利用するのも良いであろう。

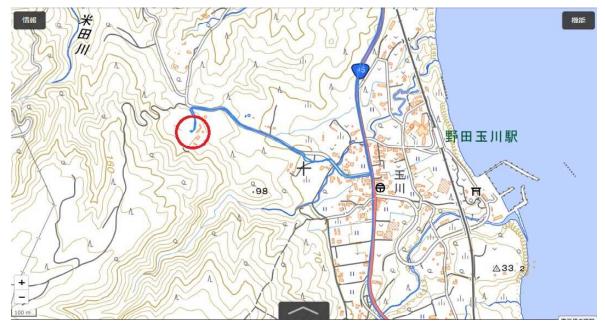


図2 図1の野田玉川鉱山跡の部分拡大図。赤丸のところが観光施設となっているマリンローズパーク。新通洞坑のあった場所。45号線から野田玉川駅当たりで、支線に入り西行していく。丘上の所にある。

鉱山跡(マリンローズパーク)写真



写真1 野田玉川鉱山跡に設置された観光施設マリンローズパークへの入り口。広い丘の上にある。開業期間を確認すべきである。前回は、ここを著者は正月に訪れたが、休業であった。



写真2 「野田玉川鉱山地下博物館」の看板を掲げている博物館、 兼売店、兼受付、兼案内所。坑道 へは受付後、右側の通路を進んで 行く。



写真3 博物館内に展示されていた現地産のバラ輝石原石。



写真4 この通路の先に観光用 坑道入り口がある。真夏でも内 部は寒いので上着があった方が 良い。

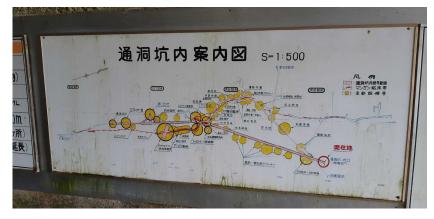


写真5 入口付近にあった坑坑内 を内看板。坑道は元「約500m 奥まであり、約500m 奥までありに進める着がはでいる。が様容う をおけれている。が様容もと をおけれている。 とは構時間がかかろう。



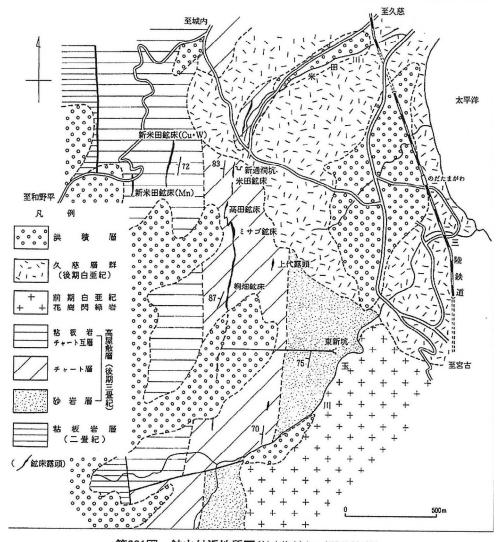
写真6 坑道壁で見られるるがで見られる分で見られる分で見られる分での見られる分での見られる分での見られまれる。はなどでないではながないとしてがない。の実は本ではないのではないのではないのではないのではない。良いはないのた。

購入鉱物



写真6 野田玉川原産のバラ輝石。売店で購入。価格は400円/g。カボション型に磨けば「マリンローズ」の宝石になるに違いない。

資料



第221図 鉱山付近地質図(鉱山資料を一部訂正加筆)

図3 参考文献(1)より複写掲載。この地質図は現在の地形図の図2と良く対照できる。三角測量法で、マリンローズパークの場所は、新通洞坑跡と推断した。この地図中には何カ所かに露頭鉱脈、坑口が書されている。後掲の図4も参考ににして、この当たりの山中を歩き回るのも面白い。が、道は殆どなさそうだ。現地の見通しのきく、草木の枯れた時期に沢や尾根などを経由するのが最適かも。

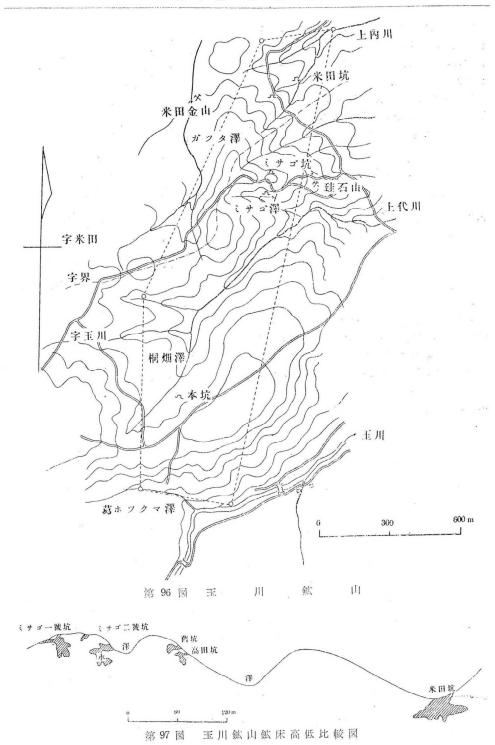


図4 参考文献(2)より複写掲載。この鉱山図は、現在の地形図と比較するのは少し難しそうである。古い鉱山図や地質図には、現在の地形図と余り一致しない場合がよくある。が、ある程度のことを根拠として、この地図の「ミサゴ坑」が、現在のマリンローズパークの位置に相当しているのではないかと考えている。

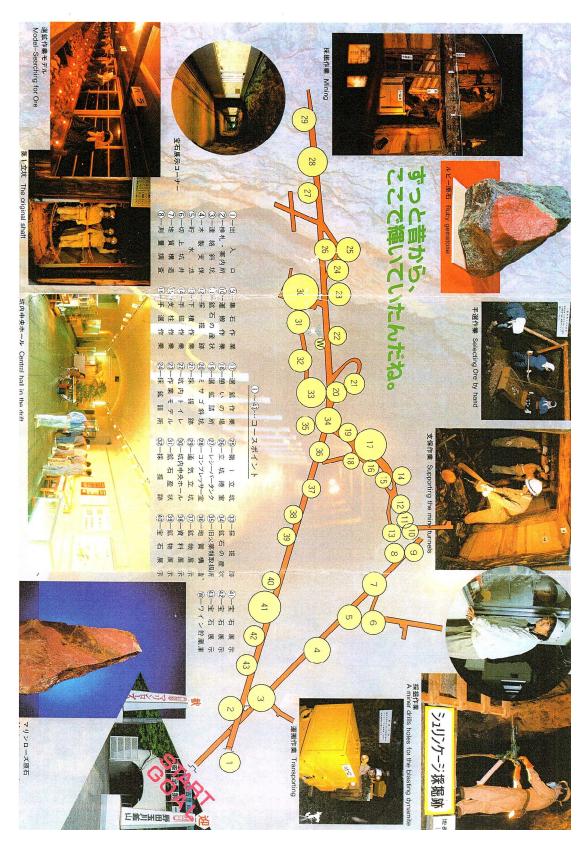


写真7 博物館でもらった坑内の様子を案内しているパンフレットの1つ。写真3と同類物。

参考文献

- (1)「新岩手県鉱山誌」、高橋維一郎、南部松夫、東北大学出版、2003年
- (2)「日本のマンガン鉱床」、吉村豊文、マンガン研究会資料、1952年